

平成28年度 燕市・西蒲原郡社会科部 活動報告

部長 岡崎 登

1 研究主題

社会的事象を多面的にとらえ、社会的な見方・考え方を深める子どもの育成
～資料からどのようにして、何を読み取らせるか～

2 研究の実際

研究主題のねらいに迫るために、主に以下の2点についての研修を計画・実施した。

(1) 地域巡検＜部員一人ひとりの見識を深める＞

- ① 日時・会場 6月1日(水) 15:15～16:40
吉田小学校
- ② 講師 にいがた県央マイスター
高橋 千春 様(磨き屋一番館)
- ③ 演題 「にいがた県央マイスターに学ぶ」
- ④ 内容



「にいがた県央マイスター」が行う技術・技能継承活動は、地場産業振興の一翼を担っており、今後ますますの活躍が期待されている。次の4点について講演していただいた。

- ア 自分が仕事に対して納得できているか
- イ 後継者育成
- ウ 仕事は遅くてもよい。しかし、あいさつ・整理整頓はしっかりする
- エ 教えないことも指導の一つ(とりあえず考えさせる)

(2) 授業研究＜学習指導法の検討＞

- ① 日時・会場 11月30日(水)
燕西小学校
- ② 授業者 燕西小学校 小島 恵美子 教諭
- ③ 内容



ア 授業の概要

「世界がおどろく燕のものづくり」(第3学年)
磨きや検品で手袋を使う理由を考えることを通して、よい品質の製品を消費者に届けたいという人々の思いを捉えることができる。

イ 協議と指導の概要

「燕必要でしょ!」と子どもたちが発言したことから、燕のものづくりに対して誇りと地元意識を感じることができた。また、粗磨き・中磨き用の手袋を比較し、それぞれの用途や目的を考えさせたことは、よい品質の製品を届けたいという職人の願いに気付かせることに有効であった。しかし、「なぜ手作りなのか」を問うことで手作りのよさに気付かせたり、生活を支えるためにも「儲ける」ことを捉えさせたりする必要があった。



3 成果と課題

子どもたちに社会的な思考力を身に付けさせたいと、社会部では考え研修を始めた。小島教諭の実践とその後の協議会及び指導、高橋様のご講演から、子どもが見つけた事実を比較させることで課題を見出し、職人の知恵に気付かせたり願いを捉えさせたりすることが重要であることを明確にすることができた。次年度も、子どもたちが社会的な見方・考え方を身に付けることができる手立てについて研究授業を通して研修を行いたい。